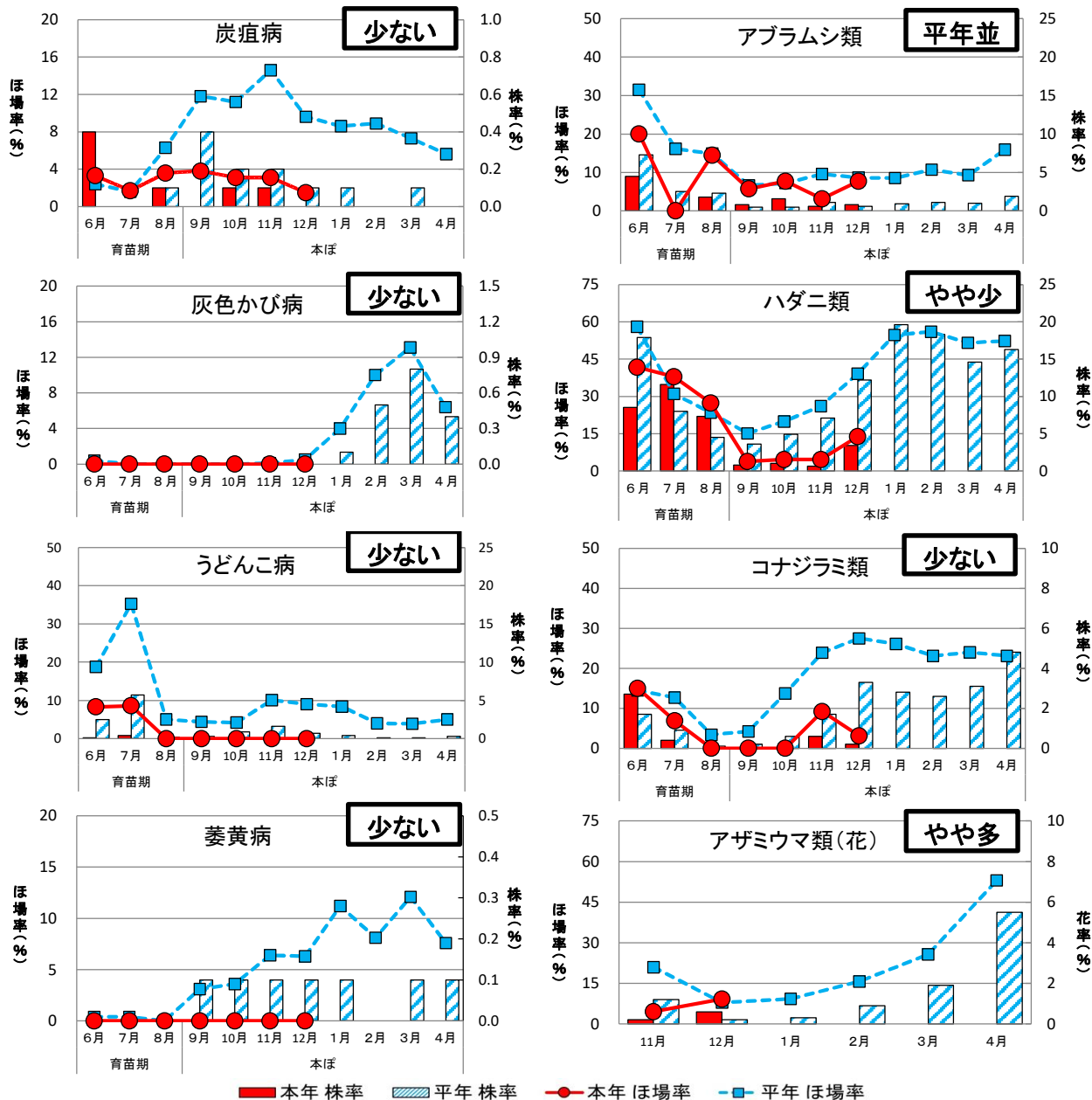


いちご病害虫情報第7号（12月）

令和5（2023）年12月22日
栃木県農業環境指導センター

■ 病害虫の発生状況 【総調査ほ場数：65か所】



※ほ場あたり25株調査 ※株率(%)：発生株数／調査ほ場数×25株 ※ほ場率(%)：発生が確認されたほ場数／調査ほ場数

■ 今月の防除ポイント

ー 灰色かび病の対策 ー

予防を主体に防除を行い、被害の拡大を防ぎましょう。

- 1 多湿条件において発生しやすいので、下葉を除去し株元の風通しをよくするとともに、かん水過多にならないように注意する。
- 2 発病した果実や果梗等は伝染源となるので、速やかに取り除き、施設外で処分する。
- 3 予防を主体に、セイビアーフロアブル20(RACコード F:12)等を葉裏にもよくかかるように散布する。
- 4 [灰色かび病薬剤感受性結果①、②](#)を当センターホームページ(HP)に掲載中。

■ 今月のトピックス ハダニ類

被害について

ハダニ類は、県内の促成栽培いちごにおいて親株から栽培終了時まで周年で発生し、多発すると株の生育不良や果実品質低下等の被害が現れます。

ハダニ類は化学農薬に対する感受性低下が起こりやすいため、表1を参考にRACコードの異なる薬剤のローテーション散布を行いましょう。天敵製剤や気門封鎖剤は、薬剤感受性の低下したハダニ類に対しても有効であり、化学農薬の散布回数を大幅に減らすことができるため、積極的に活用しましょう。

天敵製剤(カブリダニ類)の使用にあたって

- 天敵製剤は必ずハダニ類の発生前に放飼する。ハダニ類の発生が多いときは、放飼前に気門封鎖剤や天敵に影響の小さい薬剤を使用し、ハダニ類の密度を下げる。
- ハウス内をこまめに見回り、天敵が定着・増殖しているかを確認し、状況に応じて追加放飼することで、より安定した効果が期待できる。

気門封鎖剤(物理的防除剤)の使用にあたって

- 直接ハダニ類にかからなければ効果が得られないため、薬液が葉裏までかかるよう丁寧に散布する。
- 気門封鎖剤の多くは殺卵効果が無いため、卵から孵化した幼虫・成虫に対し5～7日程度の間隔で複数回散布する。



写真1 ナミハダニ雌成虫
(光沢のない楕円形：約0.6mm)



写真2 チリカブリダニ成虫
(光沢のある涙形：約0.5mm)

表1 いちごに発生したナミハダニ雌成虫に対する供試薬剤の効果(令和4年度薬剤感受性検定結果)

薬剤名	IRAC コード	壬生町	宇都宮市	栃木市	小山市	足利市	真岡市A	真岡市B
アグリメック	6	◎	◎	◎	△	◎	△	△
コロマイト水和剤	6	○	×	△	△	△	△	○
カネマイトフロアブル	20B	◎	◎	◎	○	◎	○	◎
マイトコーネフロアブル	20D	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎
スターマイトフロアブル	25A	×	×	×	×	×	×	×
ダニサラバフロアブル	25A	×	×	×	×	×	×	×
ダニコングフロアブル	25B	×	△	△	×	×	×	×
グレーシア乳剤	30	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
ダニオーテフロアブル	33	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

<判定基準>「新農業実用化試験(日本植物防疫協会)」の判定基準を引用

◎(効果は高い):補正死虫率95%以上、○(効果はある):85~95%未満、

△(効果は認められるがその程度はやや低い):70~85%未満、×(効果は低い):70%未満

補正死虫率(%)=[(無処理区生存虫率-処理区生存虫率)/無処理区生存虫率]×100

注)表中の記号はハウス単位で採集したナミハダニに対する結果であり、各地域の感受性を反映したものではない。